

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	旧岡村邸フリースペース「ガリ版楽校」	日付:	2022年3月23日
資金分配団体名:	公益財団法人東近江三方よし基金		
実行団体名:	一般社団法人がもう夢工房		
実施時期:	2021年5月～2022年2月		
事業対象地域:	東近江市		
事業対象者:	学校に行きにくい子どもたち、地域住民		

I. 事業概要

事業実施概要	<p>ガリ版に由来のある古民家旧岡村邸を改修し「ガリ版楽校」とし、①コロナ禍で学校や家に居づらくなった子どもも育成支援と、②謄写版を起源とする印刷関連企業への研修制度を立ち上げる。</p> <p>事業は建物の改修工事を中心に進めた。1階のフローリング化と空調機設置、厨房施設の新設、2階は電気設備を修繕。また、外回りでは雨戸、一部外壁の改修を行なった。</p> <p>また、利用面としては、①子ども育成支援においては、東近江市内での育成支援の現状を把握し、近隣市町の同種団体等と、意見交換しながら、どのような支援が必要であるか、また出来るかを検討した。2月28日に近江八幡市の団体を招いての試行を実施。</p> <p>②企業研修は、近江商人堀井家の企業精神やガリ版文化についての講演や、ガリ版の実演、体験等の要素でメニュー化し、2月26日には試行という形で、親しい企業の若手社員4名に受講願った。</p>
--------	--

373

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>改修工事は予想以上の老朽化と、活動するために必要な物品に経費を要した。</p> <p>子ども育成支援については、コロナ禍で不登校の（または、不登校になりうる）子どもが増えつつある中、各地での居場所づくりが広がっている。試行により、他団体との連携・情報共有が大切であると感じた。また、本来こうした「居場所」は、子ども単独で徒歩や自転車で気軽に来られることが望ましい。現状ではそこまでの施設増加は難しいが、市域の各団体と情報共有することで、少しでもそうした形態に近づけるのがこれからの課題である。</p> <p>また、企業研修制度の立ち上げにおいては、当初、首都圏への企業訪問によって意見交換する予定であったがコロナにより実現できなかった。しかし、滋賀県内の印刷業や事務機販売企業代表との意見交換によって、研修の需要の見込みの存在を知ることができた。企業研修の試行ではアンケートを実施し、改善すべき多くの意見を聴取でき、営業資料・研修資料の見直しをした。コロナ禍で、長時間の研修試行は実施困難で、民泊や食事提供、周辺散策など働く場づくりに大きく影響する試行ができず、網羅した課題・問題についての検証が今後必要である。</p>
-------------------	---

495

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
子ども・学生	不登校	<p>■子ども育成支援</p> <p>1.地域資源を活用した体験を軸に、子どもたちの意欲と生きる力を育む体制が構築されはじめている</p>	<p>総働体制図</p> <p>教材</p> <p>運営計画</p> <p>試行</p>	<p>総働体制図、教材、運営計画、試行ができて</p> <p>いる</p>	<p>総働体制図</p> <p>教材</p> <p>運営計画</p> <p>試行</p>	<p>試行を行うことで協働体制の確認が出来、教材（ガリ版・里山体験）のありかたが見えてきた。フリースペースや子ども食堂として週に1回以上の開催を目指し人員確保をしていく。</p> <p>（事業終了後、ガリ版体験で2022年6月まで5名利用、7月は41名利用予定）</p>
求職者	就業困難	<p>■地域の働く場づくり</p> <p>2.企業研修の受入体制や地域ビジネスが構築されはじめている</p>	<p>総働体制図</p> <p>研修資料</p> <p>営業資料</p> <p>試行</p>	<p>総働体制図、研修資料、営業資料、試行が</p> <p>できている</p>	<p>総働体制図</p> <p>研修資料</p> <p>営業資料</p> <p>試行1回</p>	<p>研修の試行や企業人の意見交換をしたことにより改善点が見え、施設整備・研修資料・営業資料に一部反映することができた。</p> <p>（事業終了後、2022年7月に東京方面への営業開始予定）</p>

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	<p>蒲生地区まちづくり計画書の2030年蒲生地区の将来像である「このまちで心豊かに住み続けたいと思えるまち」を目指し、古民家旧岡村邸を拠点として「地域資源を活用した体験を軸にして子どもたちの意欲と生きる力を育む活動が始まっている」、「近江商人堀井家の企業精神やガリ版文化、それを育んだ地域を題材に、企業研修の受入体制や地域ビジネスが始まっている」</p>
考察等	<p>子ども育成支援においては、県内の活動団体の現状や、行政の対応状況を調査し、現状を知った上で、東近江圏域（蒲生周辺）での取り組みについて検討。また、スタッフとなる人材の登用も重要で、教員OBを中心に口コミ、人脈から発掘に力を入れる。</p> <p>地域の働く場づくりでは、非常に厳しい状況の中で、県内の企業が協力的で、研修受講の快諾と、的確なアドバイスを得られたことが救いであった。今後、コロナ以降での活動が期待できる。</p>

204

V. 活動

活動	進捗	概要
活動拠点である古民家旧岡村邸の改修整備、インターネット環境の整備、コロナウイルス感染対策整備	計画通り	<p>【1階】4間のフローリング、空調機設置。事務室のフローリング、インターネット環境整備</p> <p>【1階土間】厨房設備新設</p> <p>【2階】電気設備修繕、【外回り】雨戸修繕、一部外壁塗り替え</p>
1-1.自宅、学校以外で学んだり友達と過ごしたりできる居場所や子ども食堂の提供準備としてのネットワーク構築（関係者との話し合いや他のフリースクールとの交流など）	計画通り	<p>近江八幡市のフリースクール2団体と情報交流、同じく子ども支援団体と情報交流を行った。</p> <p>その中で「試行」を実施する運びとなったことは、大きな収穫である。</p> <p>また、東近江市内だけでなく東近江圏域での子ども支援団体のネットワーク構築を進められている中に当方も加わり、進めていきたいと考える。</p>
1-2.学校に変わる学習の場の提供準備（講師（協力者への依頼）、教材・運営計画（授業料含む）等の検討・作成）	ほぼ計画通り	<p>新ガリ版ネットワーク（ガリ版体験）、梵ジュール里山クラブ（梵釈寺：里山散策と座禅体験）、蒲生野考現倶楽部（フィールドワーク）、元教職員（学習支援）、地元農家（農業体験）に講師を依頼。様々な体験を「教材」とする。運営計画（授業料など）は、授業内容や予定価格が適正であるか検証中。</p>
1-3.ガリ版を活用した芸術体験の場の提供準備（芸術家、ガリ版作家等への依頼）	計画通り	<p>京都在住のガリ版画家へ依頼 実演を実施した。</p> <p>東近江市在住の謄写版画家は、移住から間もなかったので次年度以降の実演や体験については協力いただけることとなった。滋賀県内の若手作家(活版とガリ版を使った作品作り)への働きかけも進めた。</p>

1-4.農地や川を活用した野外体験の場の提供準備（農家や環境系NPO等への依頼）	計画通り	近隣の里山整備活動団体や坐禅体験ができる禅寺へ依頼済 農家については、農家民泊受入れ農家へ収穫体験等を依頼済
1-5.2022年度よりフリースペース（将来的な自宅、学校以外の第3の居場所フリースクール）として活用するための試行	計画通り	近江八幡で活動する「since」（フリースクール）、「蜜柑の木」（子ども支援団体）の協力で、2月28日に試行。新ガリ版ネットワーク、梵ジュール里山クラブの協力を得て「ガリ版&里山体験」を実施することが出来た。
2-1.謄写版に所縁のある企業などを対象とした少人数制の企業研修の場の提供準備と試行（研修・営業資料の作成、企業訪問、試行）	計画通り	研修資料と営業資料を作成。試行は東近江市内の企業に協力願い、近江商人堀井家の企業精神やガリ版文化についての講演や、ガリ版の実演、体験等を2月26日に参加者4名で実施した。企業訪問は、首都圏へ赴く予定であったがコロナ感染拡大のため実施できなかった。しかし、滋賀県内の印刷業の企業人（日本グラフィックサービス工業会員）他と意見交換した。
2-2.ガリ版文化の発信・地域ビジネス化の拡大	遅延あり	ガリ版文化の発信については、ガリ版伝承館に拠点のある新ガリ版ネットワーク(会員は全国60名)と連携し、ホームページからの情報発信をしており、4月には旧岡村邸(がりばん楽校)の情報も掲載予定。以前作製したガリ版体験プログラム(リーフレット)も4月以降で改訂し関係者に配付予定(HPにも掲載)

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	他のフリースクール関係団体からも見学依頼があり、そのまま利用につながることも考えられる。試行に協力してくれた団体も再度の訪問を考えたと言っていた。当初予定していなかったが、旧岡村邸の貸館を希望する団体があり、貸館のルール化を図る予定である。特に、近江商人の精神を学ぶ講座を研修する場が県内には意外とないことから会場としての登録を依頼された。
---------------------	--

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	東近江市の子ども支援（特に不登校やそれに関する）への理解は低い。各団体がしている活動はそれぞれ素晴らしい活動ではあるが、拡げることによる経費拡大や人員の増員をすることに懸念を感じているため小規模の活動になっている。市内の子ども支援団体をネットワークすることで利用者のみならず行政への訴求になることを提言し、他の市町のように「フリースペース等事業費補助金」（神奈川県）のような機運を高めるための活動を本格化していく必要がある。 また、コロナ禍が続く中、企業においても遠方での研修は困難な場合もあり、旧岡村邸からウェブを利用した講座や体験も検討する必要がある。東京の謄写版画家は既に実施しており、ノウハウを聞きながら計画していきたい。
-----------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
since	近江八幡市を中心に活動するフリースクール。試行を依頼し実施してもらった。
蜜柑の木	近江八幡市を中心に子ども支援活動や不登校親の会、子ども食堂を展開する団体。今後も連携し情報交流する。
蒲生野考現倶楽部	蒲生地区、日野町中心に活動する自然環境保護団体。フィールドワークなどで協力。
梵ジュール里山保全クラブ	梵釈寺(東近江市蒲生岡本町)の裏山の里山散策、自然観察会の協力
新ガリ版ネットワーク	ガリ版印刷の実演と体験の講師の紹介 ホームページでの情報発信

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	8,640,000	8,640,000	100.0%
	管理的経費	360,000	360,000	100.0%
合計		9,000,000	9,000,000	100.0%
補足説明		特になし		

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	facebook立ち上げ。
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	なし
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	なし
4.報告書等	なし

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	

4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更があったが未報告	報告義務があることを理解して居らず、早急に行なう。
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査	
	<input checked="" type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	

XII. その他

自由記述
<p>コロナ禍での事業進行であったので、改修工事はほぼ工期どおりであったが、改修後の活用については、相手があることなので非常に心配したが、子ども支援事業、地域の働く場づくりともなんとか試行を実践できたことは喜ばしい。</p> <p>また、いずれもが今後においてニーズが見込める事業となるので地域の人材を投入し、雇用拡大につなげればと期待は大きい。</p>